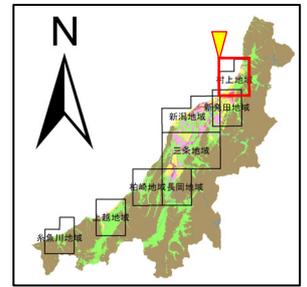
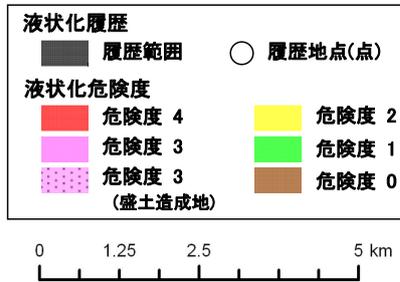


# 村上地域



村上市街地は河岸段丘上にあり、一部の造成地を除き液状化の可能性は低くなっています。明治時代までその一部が残っていた旧岩船潟では、浅層部に砂層が分布しており、液状化の可能性のある範囲(危険度3:ピンク)がJR岩船町駅付近から七湊集落にかけて広がっています。荒川沿いは砂礫が広く分布していますが、砂で充填されている旧河道の一部に可能性の高い部分(危険度4:赤)があります。胎内川沿いは典型的な扇状地で、可能性は非常に低くなっています(危険度1:緑)。

村上地域でもっとも注目される点は、胎内川と荒川間の砂丘沿いの細長い部分です。ここではN値の低い砂層が浅層部に分布し、可能性が高いと判断されます。新潟地震の際の履歴も集中しています。実は、ここは砂丘によって行く手を阻まれた胎内川が砂丘に沿って北流し、荒川に注いでいたかつての河道です。なお、砂丘地は一般に水位が低いため、危険度2(黄色)判定となります。

この地図の作製にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 200000(地図画像)、数値地図 25000(地図画像)、数値地図 25000(空間データ基盤)、数値地図 25000(土地条件)を使用しました。(承認番号 平 23 情使 第 816 号 第 817 号)  
この図面は新潟県発行の 5 万分の 1 土地分類基本調査(地形分類図)、柏崎・柿崎・高田東部・高田西部・糸魚川、1971~1986 の一部を使用して作成した。  
液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」による。本マップには、過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では、地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。

